

質問 1 石川県立図書館の田村館長に質問がございます。私が勤める図書館も新築の計画が進んでいます。しかし手探りな部分も多く、悩みが尽きません。新館移行時に発生したトラブルや考えておくべきことを教えて頂けると助かります。

回答

私自身は昨年7月16日の開館直前の7月1日に着任しましたので、開館前の苦労は経験していません。しかし、新館建設には基本構想段階から関わってきましたので、どの辺が大変だったのか多少は理解しています。私が理解している範囲での非常に浅い意見になってしまうことをお許しください。

また、検討すべきことは基本設計、実施設計、実際の工事、竣工から開館までと、段階によって変わってきますし、また、図書館の種類や規模等によってもまるで違っているように思います。

ごくごく一般論を言えば次のようなものです。

1. 建築家とは基本設計から施工段階まで繰り返し話し合う必要があります。その際は、アドバイザーの助言は有効です。石川県立の場合には、私以外のアドバイザーとして、建築の方は植松貞夫さんと、運営面は大学図書館でしたが評判の新館を立ち上げた方がいましたので、私も含め3人と新館推進室の職員とで建築家と何回も話し合いを繰り返しました。こちらから意見を言いましたし、逆に建築家から提案されたこともあります。それでも施工時にいろいろ不具合が見つかり、そこは県の営繕課がカバーしてくれました。

2. 建築面であと一つ言うとなると、事務スペースと書庫スペースの検討が雑になりがちなので、十分に検討する必要があります。たとえば、書庫スペースは単なる閉架書庫ではなく、寄贈本の仮置き場になったり、さまざまな作業スペースにもなります。どんな業務に使うのか、よく考える必要があります。

3. 運営面では、みんな新館に向けて希望に満ちて働いているかということそうでもなくて、開館してみるとどうなるかわからない、という不安も抱えています。そのため、ちょっとしたことで反目し合ったりすることがあります。そのときには、館長は絶対に中立を守る必要があります。こうした反目も、開館して利用者の笑顔に囲まれると、自ずから解消されますから、時間に任せることが有効のように思います。

4. 石川県立では、開館前に職員の家族を集めて模擬利用者になってもらい、運営のシミュレーションをして問題点を洗い出しました。これは有効でした。

5. また、開館前に事前登録会を2回開催しました。これは、他館で開館時に利用登録申請者の長蛇の列ができるのを何回か見ていたので、そうした不便を避けるためと、市民に事前に館内を見てもらって機運を盛り上げるためと、マスコミに取り上げてもらってPR効果を狙うためでした。これは大成功でした。

6. 新サービスの検討などでコンサルが入ったりもしましたが、無駄だったように思います。大して事情を知らないコンサルが入り込んできて、プレストなどやっても、役に立つ提案にはまとまりません。それよりは、実際に図書館を建築した人や、新館を立ち上げた経験を持つ図書館職員にアドバイスをお願いした方が効果的でした。

7. 困ったときは他館を見ろ、です。

以上です。そういえば、長崎市立図書館を立ち上げて初代統括責任者になった小川俊彦さんに、せっかくの経験を本にして出したら、と勧めて、

小川俊彦『図書館を計画する(図書館の現場 9)』勁草書房, 2010

を書いていただいたことがあります。これは役に立つかもしれません。